

浅川改修計画原案の流域説明会 概要 (若槻地区)

平成15年5月22日19:00~20:50

若槻公民館

参加者：44名

Aさん

檀田の区画整理を実施している。平成8年に設立し、平成17年に事業が完了する計画であった。面積は23haあり、その中に2本の都市計画道路がある。その一つとしてW=22mの北部幹線が浅川を渡り、4車線の内2車線の橋が架かり、残る2車線は来年3月に完成する。返目浅川線も浅川を渡る道路だが、ダムが中止となり、河川改修の断面も決まらないことから、橋の図面が出来ない状況。地権者の皆さんに平成16年3月に完成する約束をしてある。浅川の基本計画はいつ頃出来るか。

県

上流にダムを造ることをやめた。浅川の改修計画については、従前考えていた川の流量配分が変わり、先程説明した断面で実施していく。今日示したものは、基本的な考え方、主要な部分の構造。この原案を平成15年度の中で成案にして、改修を早く続けていきたい。橋梁については、流域協議会でも議論しながら、早く計画を固め、それぞれの断面を確定していきたい。なお、市からも橋梁についての協議があるが、川の断面が確定しないため、待ってもらっている。できるだけ早くまとめ、国の認可を取り、補助事業により実施していきたい。

Bさん

合流地点の千曲川水位と浅川の水位はどちらが高いのか聞きたい。水を何とか流す方向での説明。どちらが高いか心配なので聞きたい。

県

過去には、千曲川の水位が上がったために、樋門を閉めて下流で大きな内水被害を起こしている。千曲川本川は、河床が上がったり、下流の立ヶ花地区が狭くなっているため、堰上げの影響があるのではないかと色々意見が出た。これは、国で管理しており、この対策も県として取り組むと、先般行われた説明会でも知事が回答している。現状では千曲川の計画河床と浅川の河床の高さを合わせて計画している。また樋門の敷高もこの計画に合わせてある。しかし、計画高水位は、千曲川の方が高い。また堤防の高さについても、約5m位千曲川の方が高い状況である。

Bさん

千曲川の方が高い、それでも浅川の改修をやるのか。

県

千曲川本川と浅川の堤防の高さが同じ事が理想だが、昭和52年当時の改修計画では、千曲川の堤防の高さに合わせると、現況の川幅ではとても足りず、80m近い川幅を取らないと千曲川の堤防の高さにならない。また用地等が潰れることから、現状での川幅のスタートとなった。内水の問題については、昭和58年の災害以降ポンプ機場の能力もアップしている。これは農水省サイドの排水機場であり、昭和58年以降大きな浸水被害も出ていないので、どの程度排水機場が効くかわからないが、従前よりは改善されてきている。

Bさん

ポンプに頼る考え方もあるのか。

県

浅川の改修と内水の問題とは別々の問題である。

Cさん

流域協議会等で我々の声を聞いてもらえる事はありがたいが、一部の新聞報道によれば、最終的には「流域関係市町村長の同意がないと国の承認が得られない」と見た。県では努力しているが、スムーズに行けるのか。流域協議会の性格は、会員の意見が単なる参考意見なのか、協議会で計画したものが実施の段階になるのか。

県

現在河川法が改定されており、河川整備計画としてまとめる段階で関係する市町村長の意見を付け、国へ上げる手続きとなっている。協議会については、これから県が策定する、内水対策を含めた治水・利水の計画に対する提言、事業に対する協力やフォローアップ等、実施前、実施中、実施後までである。その他、流域協議会で必要に求められた事項等で協議していただく。河川整備計画の中でも、公聴会等を設け、意見等を聞く場がある。

Dさん

市町村長の同意に関して、新聞報道によれば、長野市長はすっきりした返事をしていないが、流域住民としては、出来る所から早く河川改修を進めてもらいたい。私の場所（JRの下流）は、天井川を下げて快適になったが、未改修区間の改修を早く改修してほしい。

私どもの部落の総会でも、流域の促進について、ダム計画地や上流部の開発に伴い木が26万本以上伐採され、保水力が低下した。この保水力を確保するために予算を確保し、植林計画等の準備を進めてほしい。

私が来た頃は20軒から30軒ほどしかなかったが、現在102軒となった。水田を潰して宅地化したので、そこに溜まっていた水は一斉に流れてしまう。部落だけの水でも大変な量となる。稲田の大開発で、水田を潰して500戸の部落が出来ている。都市計画を計画する場合に、その水を溜めるような計画をしてもらい、流域全体をとらえた貯留施設を検討してもらいたい。

県

貴重なご意見。長野市は、県としては治水の安全度を従前の100年確率は確保することを当面の目標とする、としてスタートしたので、この辺のギャップがある事を心配していると思う。河川改修は50年確率での改修となり、流域対策分が出ていないので、心配しているのだと思う。推進本部で検討中であり、まとめ次第、皆さんに説明する事となる。森林の問題、市街化のご意見も、流域対策の中で出てくると思う。これから検討していきたい。

Dさん

長野市は各家庭への貯留施設を補助しているが、県としても補助金等の手段を検討してもらいたい。

県

貴重なご意見として伺っておく。

Eさん

計画を知事が変更したが、どの点を大事に考えて変更したか聞きたい。

県

自然を出来るだけ痛めず、百年、二百年先を見て考えていかなばならないことや、世界的な規模での温暖化、自然環境への見方も変化してきたことを考えて、知事は

判断した。

Eさん

環境のために変更したと言う事だが、ダム問題は安全面が一番大事だと思う。知事は環境面とお金の問題を言っているが、安全面は言っていない。今日問題になっている河川問題は、安全面が一番大事だと思う。

ダムを造った場合と河川改修の場合の費用について聞きたい。

知事がダムを中止した時、浅川を利用している人達に一軒、一軒説明をしたか聞きたい。

この案(河川改修原案)でもし災害が起きた場合、県はどのような補償をしてもらえるか聞きたい。

県

このダムの安全面については、県の条例で設置した治水・利水ダム等検討委員会において、ダム有り、無しの白熱した議論が交わされたが、最終的にはダムによらない結論が出た。環境面を取るのか、安全面を取るのかは大きな問題であるが、従前のダムの安全度(100年確率)を改修の中でも実施して行くので、安全度が下がることにはならない。

先般の検討委員会でも議論の対象となったが、その時の資料ではダム+河川改修案では約257億。河川改修の単独案では約130億。なお河川改修単独案は、補助金の問題や橋の架け替え等の数字はつかみきれていない。今日説明した河川改修の費用は概算100億円位。改修してある部分の嵩上げ、河床掘削と、未改修区間の改修が含まれる。2割分の流域対策がどの様になるかは未定の部分があり、現状ではトータル的に回答できない。

用水利用については、ダムをやめるにあたって個々に説明を行っていない。浅川にもそれぞれ既得の水利権があり、ダムを造る前提で利水者と協議を行っていたが、今後意見等が出て来ると思う。

災害が出た時に補償するかしないかは大きな問題。県の河川管理に瑕疵があったかどうか問題になり、非常に難しい話。実際に災害があった場合の判断になる。

Eさん

ご苦労いただいているのはよくわかる。私は安全度を大事にしてもらいたい。

Fさん

区間の未改修区間に、利水の取水口が12箇所ある。そのことについて何も話が出ていない。取水についてわかったら教えてほしい。

従来計画では河川改修で350 m³/s、ダムで100 m³/tを対応する計画が、今回の説明では、8割の360 m³/sを河川改修で行うとのことだが、2割の流域対策についての具体的対策がわかれば教えてほしい。

県

この原案がOKとなれば、各区間の細かい設計をしなければならない。この作業は現況の取水の場所等、現地を見ながら検討するため、この場では細かい話は出来ないが、今後相談する事となるのでよろしく願いたい。

流域対策については、推進本部の別の班で検討しており、7月頃を目処に出てくると思う。今日の段階では説明ができないが、まとまり次第説明したい。

Gさん

今日説明のあった河川改修計画には賛成。出来る事から早速始めてほしい。

檀田大橋付近までは三十数年前に一回改修が行われているが、その上流は改修工事

が実施されていない。大水が出て崩れれば、災害復旧による継ぎ足しの護岸が出来ている。川の中に土地が残っていたり、川の反対にも土地がある状況で、手つかずの箇所が沢山あるので、早急を実施してほしい。

Hさん

初めて出席した。気付いた点について質問したい。千曲川合流点付近で流下能力を増すために約20cmの河床を下げる説明だったが、一回の洪水で堆積してしまうと思うがいかがか。

2割、90m³/sの流域対策の一つとして、新聞報道でも言われているが、上流へ木を植えて保水能力を増す事は良いことだが、木を植えて保水能力が増すには、50年から100年かかるのではないか。その間に100年確率、50年確率の集中豪雨がある。昭和57年、58年に降ったような災害があるのだから、カットするような遊水地をどこへ、どの程度のものを造るか聞けると思った。また、保水能力は、夏場のような1月も2月も雨が降らないで、乾燥状態の時に有効であるが、洪水が発生する時は、飽和状態であり、降った雨は殆ど100%近く浅川へ流れ出てきてしまう。その点が疑問。

区間 で嵩上げ（特殊堤）の区間は国の許可になるか。

稲田大橋の周辺は、1割の護岸勾配を5分にすると、床止はどうするか。

各地点の現況流下能力、流速について教えてほしい。

県

水の出方によっては、ご指摘のような状況になるかもしれないが、今回の計画では写真でお示しした通り、下流部は護岸等が出来上がっている。これをやり直すのは不経済であり、用地買収も必要となる。これをできるだけ避けたいため、20cmの河床掘削を計画した。掘削については、既存の護岸に影響ない工法を考えていきたい。

流域対策の2割分については、現状ではどのようなメニューが出てくるか示されないが、7月頃には出る。

区間については、基本的に嵩上げ方式で計画した。パラペットは、川全部がこのような形になると難しいが、部分的には国でも認めてもらっている。

稲田大橋付近は全部護岸の積み替えとなる。既存の床止もあるが、新しい縦断計画に合わせて床止をやっていく。

流下能力は、区間 で350m³/s、区間 で270m³/s。流速については、下流部では河床勾配が1/1200と緩く、2.4m前後になると計算している。区間の流速は2.5m前後。河床勾配は1/1000と緩い。区間 で230m³/s、河床勾配は1/700～1/300、流速は2.8～4.0m。区間 で160m³/s、流速は4.5～5.0m、河床勾配は1/80～1/120と急になっている。一番上流部は未改修区間であり、流下能力は70m³/s前後、流速は5.2～5.4m。

Hさん

流量観測の実績はあるか。

県

流量観測は浅川のダム位置の1箇所しかないが、その後1箇所下流で設置し、今年から記録を取っている。

Hさん

この計画を15年度中に検討して、国の承認を得て国庫補助事業で行うとのことですが、ダム無しの最終計画案で行うと膨大な費用になり、10年～15年では終わ

らないと思う。こんな質問をしては失礼だが、国当局からGOサインがでるのか。

県

国への説明はまだ行っていない。県としての方針を、住民説明会等を行って決めていかなければならず、それをもって国へ説明に行くことになる。現段階では認可が取れるか回答できない。

Hさん

問題はそこ。県は何地区かで説明会をやって、ある程度長野市の各地域の説明会をやって了解を取り付けて行くと解釈されては困る。その点どういう形にするのか。

県

あくまでも今日は原案の説明。流域対策がどのような形になるのか、トータル的なもので、最終的には皆さんに説明しなければならい。

Iさん

ダム問題で河川改修がストップしたと聞いているが、まだ他力橋から上流は改修が済んでいない。これから梅雨に入るので早急に河川改修を実施してほしい。

Jさん

5月7日、知事、土木部長が来た時に説明を聞いた。それぞれの皆さんが、「早くやってもらいたい」「住民の声を大事してもらいたい」との声が多かった。県では「平成15年度中に計画を作って国へ持っていきたい。」と言っているので、住民の声を生かした計画を行ってほしい。

一番下流の長沼の皆さんや上流の皆さんもダムを望んでいるわけではない。何よりも安全な川を造ってもらいたいとのことだった。特に長沼は、「内水の問題を早く解決してもらいたい」と言っていた。上流でも「この土砂どうしてくれる」と言っていた。土砂対策も重要であり、毎年、毎年、全河川の浚渫を行ってもらいたい。流域対策の遊水地も強い意見があったので、早く推進してほしい。

Kさん

ダムを建設することで、何回も説明を受けてきたが、中止となった。30年の積み重ねが中止となった。100万tのカットが出来ると聞くが、再度河川改修をやることなく、ダムを造れば良いのに。ダム事務所が無くなる挨拶も要らなかった。